



2019年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年3月13日

上場会社名 株式会社ジャパンミート 上場取引所 東
 コード番号 3539 URL http://www.japanmeat.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 境 正博
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 杉山 洋子 (TEL) 03 (6453) 6810
 四半期報告書提出予定日 2019年3月14日 配当支払開始予定日 2019年4月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2019年7月期第2四半期の連結業績(2018年8月1日~2019年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年7月期第2四半期	56,316	1.8	2,642	4.5	2,718	5.4	1,579	3.4
2018年7月期第2四半期	55,311	6.6	2,528	6.0	2,579	5.4	1,527	7.1

(注) 包括利益 2019年7月期第2四半期 1,537百万円(△2.9%) 2018年7月期第2四半期 1,583百万円(4.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2019年7月期第2四半期	円 銭 59.31	円 銭 —
2018年7月期第2四半期	57.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2019年7月期第2四半期	百万円 39,525	百万円 24,945	% 63.0
2018年7月期	39,252	23,937	61.0

(参考) 自己資本 2019年7月期第2四半期 24,908百万円 2018年7月期 23,926百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年7月期の連結財政状態は、遡及適用後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2018年7月期	円 銭 —	円 銭 10.00	円 銭 —	円 銭 20.00	円 銭 30.00
2019年7月期	—	10.00			
2019年7月期(予想)			—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年7月期の連結業績予想(2018年8月1日~2019年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	110,041	1.6	4,686	5.3	4,750	4.5	2,742	△1.1	102.95	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、 除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2019年7月期2Q	26,679,500株	2018年7月期	26,679,500株
2019年7月期2Q	40,850株	2018年7月期	42,767株
2019年7月期2Q	26,637,211株	2018年7月期2Q	26,636,733株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(業績の状況)

当第2四半期連結累計期間(2018年8月1日～2019年1月31日)における我が国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を通じて緩やかな回復基調で推移しております。しかし、米中通商問題の動向や米国の政策に関する不確実性、中国経済の減速等により、景気の先行きは不透明な状況にあります。

食品小売業界におきましては、消費者の根強い節約志向や、業種業態の垣根を越えた販売競争の激化に加え、人手不足を背景とした人件費や物流費のコスト上昇など、厳しい事業環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様の暮らしの基本である食を通して、安心・安全を守り、値頃感がある商品展開をすすめ、変化に富んだ店づくりをすることで、さらなるご支持をいただけるような店舗運営に努めてまいりました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績は、スーパーマーケット事業、その他の外食事業の既存店の業績が概ね順調に推移したこと、その他のイベント関連事業において「肉フェス」「餃子フェス」が計画通り開催できたことにより、売上高は56,316百万円と前年同四半期に比べ1,005百万円(1.8%)の増収、営業利益は2,642百万円と前年同四半期に比べ113百万円(4.5%)の増益、経常利益は2,718百万円と前年同四半期に比べ139百万円(5.4%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,579百万円と前年同四半期に比べ52百万円(3.4%)の増益となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

a スーパーマーケット事業

スーパーマーケット事業につきましては、大型商業施設内店舗「ジャパンミート生鮮館」、関東圏単独店舗「ジャパンミート卸売市場」、北関東で展開する地域密着型店舗「パワーmarkt」、東京都内を中心に展開する業務用スーパー「肉のハナマサ」等を展開しております。

いずれの店舗におきましても、来店されるお客様が楽しんでお買い物ができる店づくりを目指し、当社グループの強みでもある精肉部門を中心とした生鮮各部門及び一般食品から惣菜にいたるまで、それぞれの部門が商品力・技術力に磨きをかけ、お客様のニーズにあった値頃感のある商品展開をすすめ、より安心・安全な商品を提供できるよう、努めてまいりました。

商品の販売につきましては、特定の商品を大量に陳列し、値頃感がある商品をお客様へアピールをすることで購買意欲を高める「異常値販売」を定期的を実施する他、グループ各社で開発した商品を共有し販売を行うことで、販売点数及び商品の仕入力の向上、採算の安定に繋がるよう努めてまいりました。

また、当社の加工物流センターでの大量かつ効率的な精肉加工、商品供給を行うことで店舗オペレーションを安定的にサポートすることに加え、店舗内においても必要に応じて精肉加工を行い、売れ筋に対応した商品の速やかな提供により販売機会のロス削減等、戦略的、効率的な販売に努めております。商品の仕入につきましては、加工物流センターにおける大量備蓄機能を活用することで、食材価格変動の影響を受けにくい商品仕入体制を構築し、採算の安定と商品在庫の確保を図っております。

店舗の状況としましては、2018年11月に「Hanamasa Plus+」東武練馬店(東京都板橋区)、12月に「肉のハナマサ」大久保店(東京都新宿区)、「肉のハナマサ」新日本橋店(東京都中央区)を開店いたしました。また、2018年12月に「肉のハナマサ」つくば店(茨城県つくば市)の運営方法をフランチャイズから直営に変更いたしました。これにより当第2四半期連結累計期間末時点におけるスーパーマーケット事業の店舗数は83店舗となりました。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、既存店の業績が概ね順調に推移したことにより、売上高は54,226百万円と前年同四半期に比べ906百万円(1.7%)の増収、セグメント利益(営業利益)は2,419百万円と前年同四半期と比べて29百万円(1.2%)の増益となりました。

b その他

その他の事業につきましては、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業で構成されております。

外食事業につきましては、主に「焼肉や漫遊亭」を展開しております。当第2四半期連結累計期間におきましても、得意とする精肉の調達力、ノウハウを活かし、新鮮で高品質な料理を安価でご提供できるよう努めてまいりました。また、おいしい商品と快適な食事空間を提供するという基本方針のもと、新メニューの開発をすすめ、他店との差別化を図り、お客様が楽しく食事ができる店づくりに努めてまいりました。

イベント関連事業につきましては、「肉フェス」など食に関わるイベントの展開、国内外のイベントの制作、運営などを行っております。当第2四半期連結累計期間における主な活動状況といたしまして、2018年8月に「肉フェスKARUIZAWA2018」（長野県北佐久郡）、10月に「肉フェスさいたま新都心」（埼玉県さいたま市）、「肉フェス国営昭和記念公園」（東京都立川市）を開催いたしました。今後も食肉及び地域の食文化の魅力を国内外に発信する取り組みを行ってまいります。

アウトソーシング事業につきましては、スーパーマーケット業界におけるレジ業務の受託代行サービスを行っております。スーパーマーケットの実務経験に基づいた独自のノウハウによって、顧客のニーズに応える質の高いサービスを提供しております。レジ業務のプロフェッショナルとして新規顧客開拓を行い、業容の拡大に努めてまいります。

当第2四半期連結累計期間における経営成績につきましては、外食事業の既存店が概ね順調に推移したこと、イベント関連事業において「肉フェス」「餃子フェス」が計画通り開催できたことにより、その他事業の売上高は2,994百万円と前年同四半期と比べ126百万円（4.4%）の増収、セグメント利益（営業利益）は206百万円と前年同四半期と比べ83百万円（67.7%）の増益となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産、負債及び純資産の状況）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度と比べ272百万円増加し、39,525百万円となりました。流動資産は666百万円増加し、固定資産は394百万円減少しております。主な要因は、現金及び預金の増加344百万円、たな卸資産の増加267百万円、減価償却による有形固定資産の減少114百万円及びのれんの償却を含む無形固定資産の減少216百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度と比べ734百万円減少し、14,579百万円となりました。主な要因は、買掛金が351百万円、長期借入金が293百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度と比べ1,007百万円増加し、24,945百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加額1,047百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、2018年9月12日付発表の「2018年7月期 決算短信」の記載から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,360	12,705
売掛金	1,252	1,291
たな卸資産	4,007	4,274
その他	1,704	1,719
流動資産合計	19,325	19,991
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,134	7,031
その他(純額)	3,700	3,688
有形固定資産合計	10,834	10,720
無形固定資産		
のれん	2,690	2,481
その他	596	588
無形固定資産合計	3,286	3,069
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,287	4,273
その他	1,553	1,503
貸倒引当金	△34	△34
投資その他の資産合計	5,806	5,743
固定資産合計	19,927	19,533
資産合計	39,252	39,525

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,149	4,798
短期借入金	846	846
1年内返済予定の長期借入金	587	587
未払法人税等	1,052	1,221
賞与引当金	321	328
その他	3,151	2,896
流動負債合計	11,108	10,678
固定負債		
長期借入金	2,594	2,300
退職給付に係る負債	405	435
資産除去債務	442	445
その他	763	719
固定負債合計	4,205	3,900
負債合計	15,314	14,579
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,229	2,229
資本剰余金	2,350	2,351
利益剰余金	19,144	20,191
自己株式	△33	△31
株主資本合計	23,690	24,740
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	255	186
退職給付に係る調整累計額	△20	△18
その他の包括利益累計額合計	235	167
非支配株主持分	11	37
純資産合計	23,937	24,945
負債純資産合計	39,252	39,525

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年8月1日 至2018年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年8月1日 至2019年1月31日)
売上高	55,311	56,316
売上原価	39,726	40,128
売上総利益	15,584	16,187
販売費及び一般管理費	13,055	13,545
営業利益	2,528	2,642
営業外収益		
受取ロイヤリティー	33	15
受取手数料	4	6
受取精算金	—	36
その他	68	35
営業外収益合計	106	93
営業外費用		
支払利息	16	13
解約手数料	21	—
その他	18	5
営業外費用合計	56	18
経常利益	2,579	2,718
税金等調整前四半期純利益	2,579	2,718
法人税、住民税及び事業税	1,080	1,123
法人税等調整額	△28	△9
法人税等合計	1,051	1,113
四半期純利益	1,527	1,604
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	24
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,527	1,579

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年8月1日 至2018年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年8月1日 至2019年1月31日)
四半期純利益	1,527	1,604
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	54	△68
退職給付に係る調整額	1	1
その他の包括利益合計	55	△67
四半期包括利益	1,583	1,537
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,583	1,512
非支配株主に係る四半期包括利益	—	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2017年8月1日 至 2018年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	53,005	2,306	55,311	—	55,311
セグメント間の内部売上高 又は振替高	315	561	876	△876	—
計	53,320	2,868	56,188	△876	55,311
セグメント利益	2,390	122	2,513	15	2,528

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額15百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2018年8月1日 至 2019年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	53,887	2,428	56,316	—	56,316
セグメント間の内部売上高 又は振替高	339	565	904	△904	—
計	54,226	2,994	57,221	△904	56,316
セグメント利益	2,419	206	2,625	16	2,642

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額16百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

取得による企業結合

当社は、2019年2月26日開催の取締役会において、株式会社タジマの株式を取得して子会社化することについて決議し、3月1日付で同社との間で株式譲渡契約を締結いたしました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社タジマ
事業の内容 スーパーマーケット事業

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社タジマは、埼玉県東部エリアを中心に地域密着型の「スーパーマーケットタジマ」を展開しております。「お客様のお役にたつ、サービス精神あふれる店舗」と「常に鮮度・品質・適正価格を意識した商品」に取り組んでいる企業です。

同社が当社グループ入りすることで、スーパーマーケット事業の埼玉エリアの店舗網拡充や事業基盤の拡大、両者の企業価値向上、当社グループのノウハウを共有することでシナジー効果が期待できると判断し、株式取得(子会社化)することにいたしました。

(3) 企業結合日

2019年5月1日(予定)

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得する議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得することによるものであります。

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	50百万円
取得原価		50百万円

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定しておりません。

4. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。